

私のおすすめ本

兒玉公一郎 教授
(経営学・現代企業論)

『アメリカン・マインドの終焉』アラン・ブルーム著

みすず書房 1988年

この本はコーネル大学やシカゴ大学の哲学教師であった著者が、アメリカにおける知の変遷と大学の危機について論じた本です。特に、1960年代にアメリカの大学で吹き荒れた学生運動や当時(80年代)の大学における現状を独特の言い回しで辛辣に批判しており、本国で(否定的な反応も含め)大きな反響を呼んだ本です。

私事で恐縮ですが、いまからかれこれ四半世紀前に、地方から上京してきたばかりの自分は、正直に白状してしまうと「大学で商売に関する実践的・専門的な how to を手っ取り早く身に着けて、自分で商売をやろう・・・」くらいの軽い感覚で、大学の門をくぐりました。それまでプラトン、アリストテレス、カント、スミス、マルクス、ニーチェ、ウェーバーなどの偉大な思想家の名前は大学受験のための知識として聞き覚えがあっても、はるか昔の遠くの世界に生きた人物に関する断片的な知識が並列状に頭の中に詰め込まれていただけで、その知識が自分にとって何か特別な意味を持っていたわけではありません。当然、彼らが自分の魂に何かを語りかけるということもありませんでした。彼らが先人からどのような影響を受け、どのような問題意識の下で何を考えたのか、なぜそう考えなければならなかったのか、などについて全く知りませんでしたし、知ろうともしていませんでした(すでに大人になった今でもよく解っていないのかもしれませんが)。無知であるがゆえに、そんなものは自分が現実を生きていく上で何の役にも立たないという、学問に対してかなり不遜な態度だったことを今から思い返すと気恥ずかしくなります。

ところが、受験勉強明けのしばしのリハビリ期間を過ごした後、ひょんなことからこの本と出合っしまい、浅はかな自分の認識をすべて喝破されているようで、ハンマーで思い切り頭を叩かれたような強烈な衝撃を受けました。精神的に幼く単細胞であったがゆえに影響されやすかったというのかもしれませんが、この本で言及されている「魂のあこがれ」とはどんなものかと問うたときに、「4年間しかない大学時代に、将来の仕事に役に立つとかチンケなことで過ごしている場合じゃないぞ」と、大きく方向転換することになりました。その意味で、この本は、現在の、そして大学入学当初に志していた、「専門」である経営学

から自分を遠ざけた本です。にもかかわらず、この本はサラリーマンを辞めて大学院に入り直すときなど、自分が経営学という学問に回帰していく節目節目で、自分の立ち位置を省察するために参照すべき準拠点としての大事な意味を持っているように思います。

『まかり通る 電力の鬼・松永安左エ門』小島直記著

東洋経済新報社 2003年

上述の事情で、大学時代はあまりまじめに経営学の勉強はしていませんでしたが、それでも将来自分はどのようにして身を立てていくべきかという点では、一応人並み程度には頭を悩ませていましたが、商売人の家で育った人間としてビジネスというフィールド以外の選択肢は頭にありませんでした。そのような問題意識で高校生の頃あたりから、自分のロールモデルとなる人物をずっと探していたように思います。

この本は、戦後の電力体制の形成に中心的な役割を果たした松永安左エ門の伝記です。国士と呼ぶにふさわしい松永の波乱万丈の一代記であり、反骨精神に満ちた気概ある実業人のロマンがここにはあります。読んでいて痺れるといいましょうか、血沸き肉躍るとするのは、こんな感覚かもしれません。圧倒的にスケールが大きい松永の生き様は現代の感覚では滅茶苦茶だと言われるかもしれませんし、また、あまりの人間的な器の大きさゆえに自分からは仰ぎ見るような存在で、直接的なロールモデルにはなりえないのですが、それでも何かと学ぶところが多いように感じます。近代日本を作り上げてきた、人間的に魅力に富んだ実業家を取り上げることのできるのは経営学の一つの醍醐味かもしれません。

『男子の本懐』城山三郎著

新潮社

こちらも伝記になってしまいますが、戦前に総理を務めながら凶弾に倒れた「ライオン宰相」と呼ばれた浜口雄幸の生涯が綴られています。浜口内閣が実施した緊縮財政や金解禁などの経済政策そのものは、最近はあまり評判がよろしくありませんが、それでも浜口の人物面での魅力はどうしても無視できません。著者の城山三郎氏が取り上げる人物は、経済人・政治家を問わず、いずれも気骨ある生き方をした人ばかりです。浜口雄幸もこの例にもれず、学究肌で寡黙でありながらもただひたすらストイックに己の政治的信念を貫く姿が、この本では描かれています。この点においては真反対の極にある自分は、この本の背表紙を見るたびに居住まいを正さねばという気持ちにさせられます。

著者自己紹介

兒玉 公一郎（こだま こういちろう）

74年宮崎県生まれ。98年一橋大学商学部卒、全日本空輸(株)勤務後、05年一橋大学大学院商学研究科経営学修士コース修了、11年一橋大学大学院博士後期課程修了。博士（商学）。21年に日本大学経済学部着任。